

米国学術研究の動向

NRC、専門分野を超えた学際的収束研究促進のための提言を発表（5月7日）

米国アカデミー (National Academies) 傘下の米国学術研究会議 (National Research Council : NRC) は、専門領域を超え、生命科学、物理科学、工学などの分野のツールと知識を統合させた収束研究に関する報告書「収束～生命科学、物理科学、工学などの学際的統合促進～ (Convergence : Facilitating Transdisciplinary Integration of Life Sciences, Physical Sciences, Engineering, and Beyond)」を発表した。本報告書は、NRC 地球生命研究部門 (Division on Earth and Life Studies) 生命科学委員会 (Board on Life Sciences) が編成した「収束及び衛生における主要課題領域委員会 (Committee on Key Challenge Areas for Convergence and Health)」が作成したものである。同報告書は、収束科学は、伝統的な専門領域別に組織された研究を行うという研究機関の風土の変化を必要としている他、専門領域を超えた研究を支援し、研究を新製品に転換するためのパートナーシップ網が必要であることを指摘し、これらのパートナーシップを支援するために、研究機関及び国家が取るべき段階を特定している。また、収束的アプローチにより、イノベーションの促進、新たな燃料・エネルギー保存システムの開発、気候変動下における安全な食料供給の確保、および慢性疾患の新たな治療法開発などといった課題への対処に役立てられる分野を特定している。さらに、今後、収束研究を促進するためには、国立衛生研究所 (National Institutes of Health : NIH)、米国科学財団 (National Science Foundation : NSF) 及びエネルギー省 (Department of Energy) などといった省庁間での協力が必要であると結論付けている。

なお、本報告書は、<http://www.nap.edu/openbook.php?record_id=18722>から閲覧可能。

National Academies, National Coordination Needed to Help 'Convergent' Research Achieve Breakthroughs and Solve Problems that Cross Disciplinary Boundaries
<http://www8.nationalacademies.org/onpinews/newsitem.aspx?RecordID=18722>